

2 2 森林・林業の現状と取組み

(1) 中部の森林資源

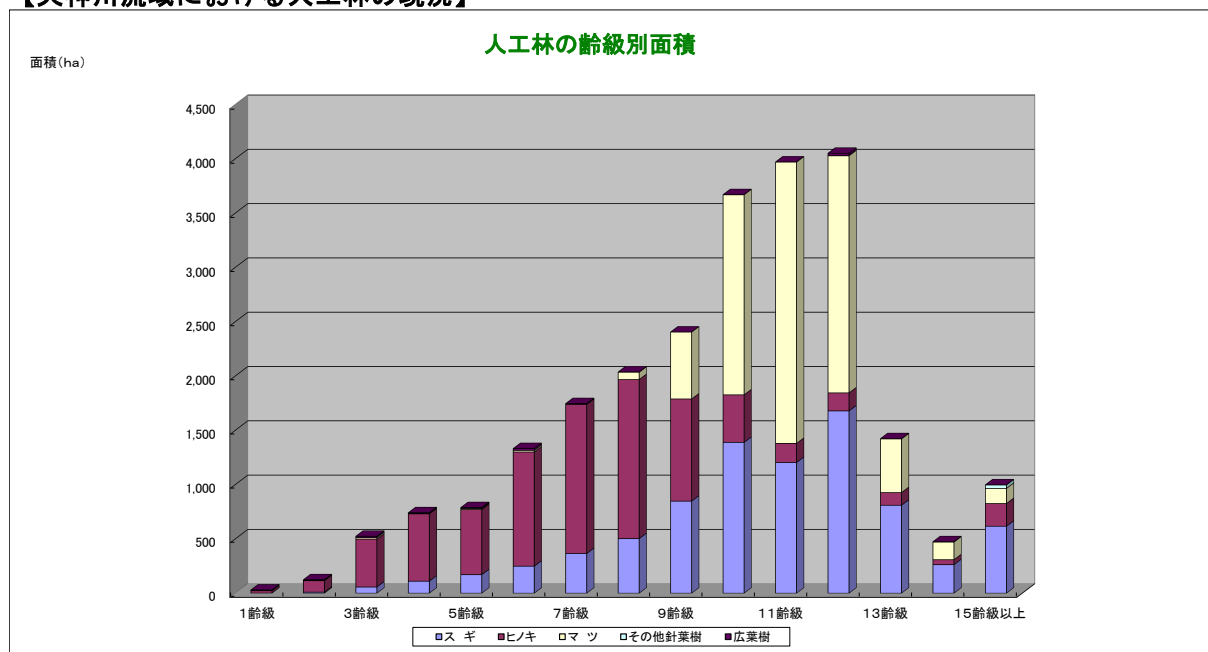
- ・ 中部の林野面積は、53,096haと、総土地面積の約68.0%を占めている。
- ・ 民有林のうち、スギ、ヒノキ等の人工林は24,479haで、人工林率は約55.8%に及んでいる。
- ・ スギ、ヒノキの人工林資源は、徐々に成熟し蓄積が増加しつつある。間伐を必要とする人工林が増大しており、間伐団地の設定や林業専用道の開設や車両系林業機械の導入により低コスト林業を推進している。

【林野面積】

区分	林野面積					民有林森林内訳			
	総面積	国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%
倉吉市	27,206	3,129	15,345	18,474	67.9	8,311	6,357	677	54.2
湯梨浜町	7,794	0	3,946	3,946	50.6	1,815	1,942	190	46.0
三朝町	23,352	4,270	16,571	20,841	89.2	9,454	6,689	488	57.1
北栄町	5,694	17	1,418	1,435	25.2	836	475	108	59.0
琴浦町	13,997	1,807	6,593	8,400	60.0	4,063	2,201	329	61.6
合計	78,043	9,223	43,873	53,096	68.0	24,479	17,664	1,792	55.7

資料：平成29年度鳥取県林業統計(平成28年度末)

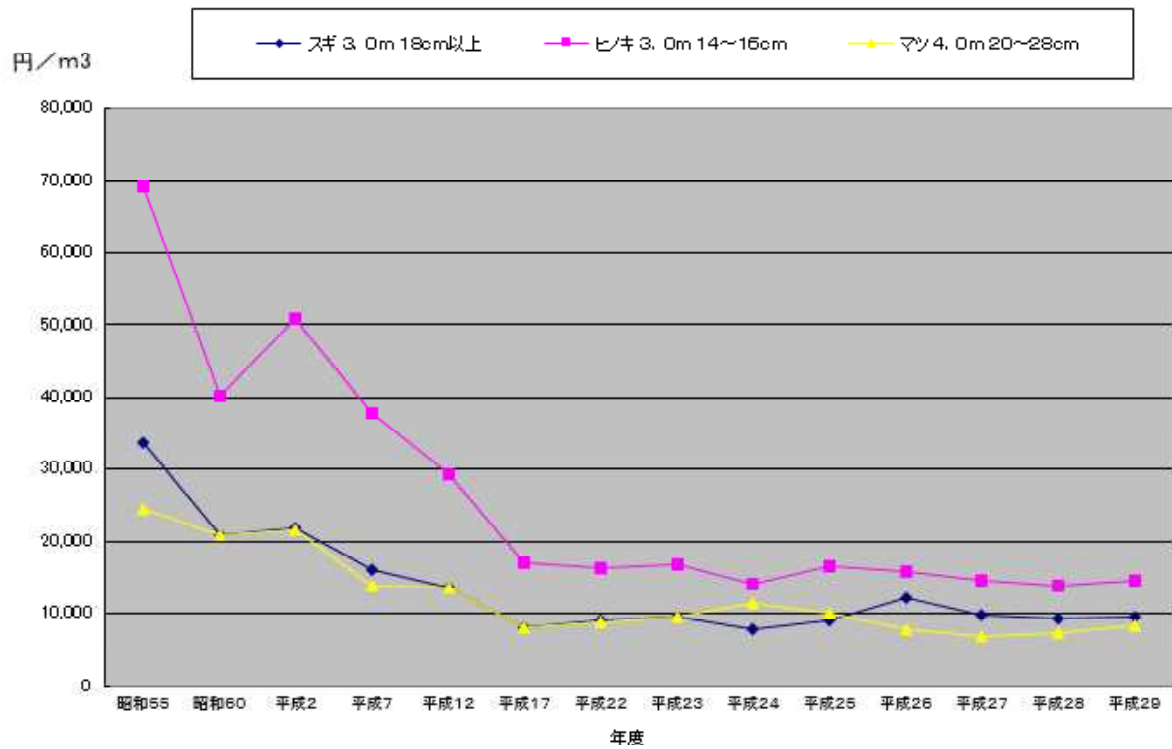
【天神川流域における人工林の現況】



(2) 木材価格の推移

木材価格は、昭和50年代頃には、スギ丸太材は3万円/m³以上、ヒノキ丸太材は6万円/m³以上と高価格で取引されていたが、それ以降は、価格の下落が続き、長期にわたり低迷を続けている。

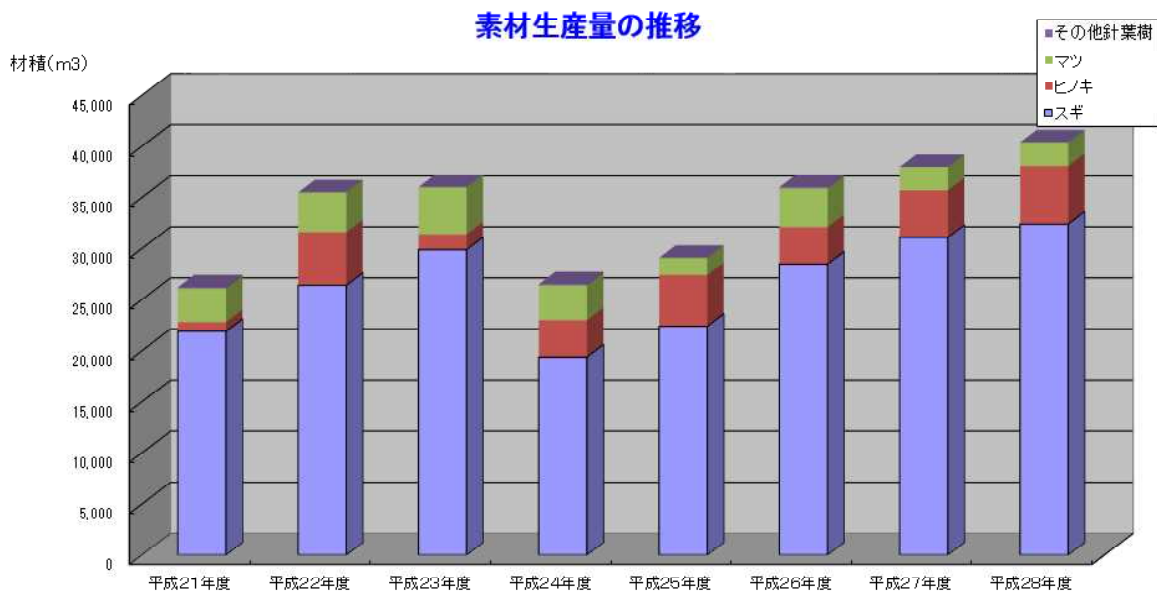
木材価格の推移



□ 資料：鳥取県林業統計ほか

(3) 地域材の供給

- ・ 年間の素材生産量(平成28年次)は、スギ32,400m³、ヒノキ5,700m³、マツ2,300m³で、材価の低迷により減少していたが、近年は路網や林業機械の普及で若干ではあるが増大してきている。
- ・ 素材生産の形態は皆伐から利用間伐へ切り替わっており、高性能林業機械の導入や林業専用道・森林作業道の開設に逐次取り組むことにより、生産コストの低減が徐々に進捗しつつある。
- ・ 今後予想される素材生産量の増加を下支えする地域材の安定的な供給先が必要である。



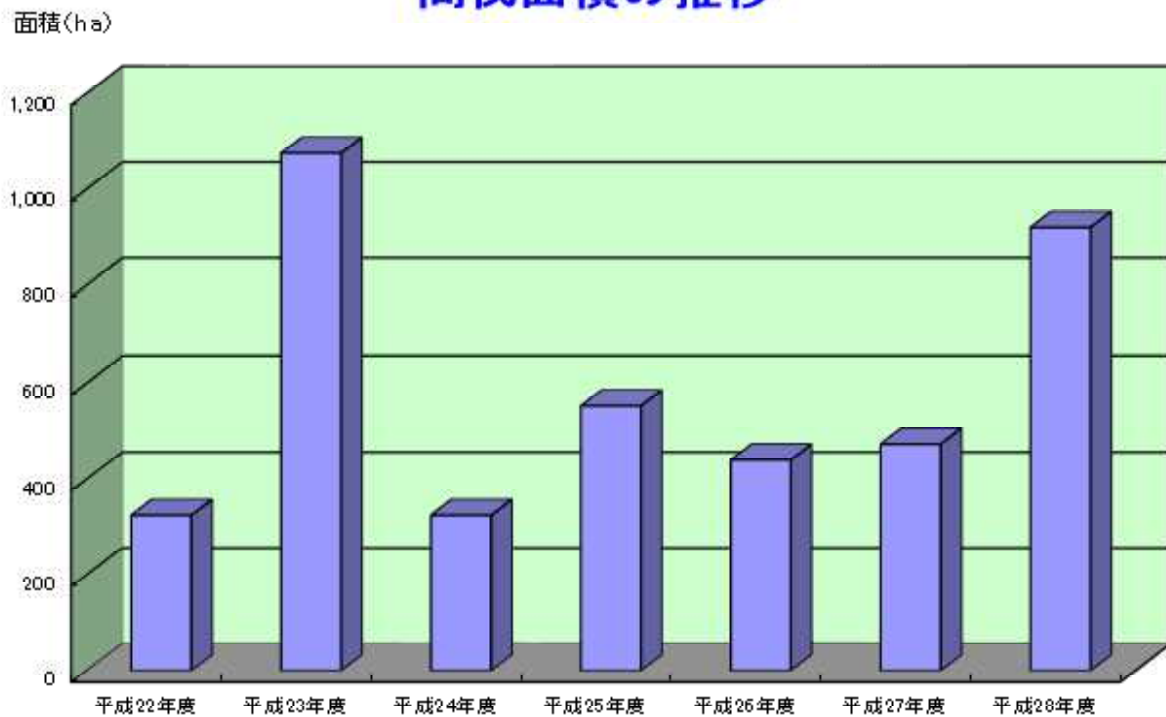
□資料：平成29年度鳥取県林業統計（平成28年度末）



(4)間伐の推進

- ・ 間伐の推進のため、県では平成13年度から「間伐材持ち出し支援事業」を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費を補助(2,800円/m³・平成30年度)している。
- ・ 管内の間伐材の搬出量は、平成19年度までは7千m³前後で推移していたが、平成25年度は22千m³、平成29年度は25千m³と年々に増大している。
- ・ このほか、「森林づくり作業道整備事業」により間伐推進のための基盤整備等を行っている。

間伐面積の推移



□平成29年度鳥取県林業統計



【市町村別間伐面積】

単位: ha

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
倉吉市	212	236	86	235	136	91	253
湯梨浜町	49	69	10	13	17	23	15
三朝町	291	453	116	152	181	232	373
北栄町	65	40	26	22	16	15	40
琴浦町	133	277	87	131	90	112	239
計	750	1,075	325	553	440	473	920